



## 82%の市民が住み続けたい街 松山

全鍍連 情報・国際委員 武田 央佳  
(有限会社武田鍍金工業所／四国鍍金工業組合)

今年度より情報・国際委員会の任を仰せつかりました四国鍍金工業組合所属の武田です。どうぞよろしくお願ひします。

今回いきいき地域ということでお話を始めていきたいと思っておりますが、愛媛県松山市は、愛媛県の中部に位置しています。県の県庁所在地であり、四国地方で最大の人口です。松山城を中心に発展して来た旧城下町で、俳人正岡子規や種田山頭火また文豪夏目漱石ゆかりの地で、俳句や小説『坊っちゃん』『坂の上の雲』などで知られる文学の街でもあります。キャッチフレーズは「いで湯と城と文学のまち」です。今回は私が住んでおります中予、松山市をご紹介しますと思ひます。

実は松山市は市民の82%が「ずっと住み続けたい」と感じている「まち」なんです。

そこで今回はそんな松山市の住みやすさのヒミツをご紹介しますと思ひます。

松山市は、必要なものが近くで揃う便利な「コンパクトシティ」といわれておりまして、その暮らしやすさは、ストレスフリーな生活につながり、松山市は日本で一番ショッピングセンターが近い「まち」とも言われております。

また、市内中心部には銀天街や大街道といったアーケードが続く商店街があります。

大街道では、愛媛県内初となる都市型ワイナリーがオープン予定となっており、市民や観光客が集まり、さらに賑やかな雰囲気が期待できます。現在も買い物に便利だけでなく、新しい体験が得られる魅力的な場所です。

銀天街では老若男女問わず、昔からのルーツを大事にしている商店街アーケードとなっておりまして、地元にも愛される人気の食事処

や、名店が多数あり、いつも穏やかな時間が流れる人々の雰囲気を感じられます。

さらに近隣には「一番町、二番町、三番町」という繁華街が広がります。

なんと四国屈指と言われる賑やかなスポットになりまして、半径200メートル圏内で約2000店舗飲食店登録されているともいわれており、地元民から観光客まで、昔から愛され、気軽に飲みに出ては楽しい夜を過ごすことができます。

五木ひろしさんの「夜明けのブルース」でも歌われたこの街には、夜を楽しむ文化が息づいています。

ここで皆様もご存じの方が多くと思ひますが、あの聖徳太子が来浴、万葉集にも関係のある道後温泉界隈は、ここからも近距離で行く事が可能です。松山市民は仕事帰りに温泉へ行って帰るのが日常なほど、車にはお風呂セットと着替えワンセットが必ず置いてあるのが当たり前で、少し足を伸ばしていただければ、温泉リゾートが多数ございますように、温泉は松山市民の生活の一部になっています。

是非いらっしゃる際には瀬戸内海の海鮮料理や伊予牛、媛どり、愛媛の名菓、銘酒を堪能していただき、温泉で日頃の疲れを癒し、繁華街で楽しい時間をお過ごしください。

終わりになりますが、近々都市開発が徐々に進行され、松山中心部から道後にかけて、新しいまちづくりが展開されているように感じております。

コンパクトに利便性を活かした「まち」が人々の触れ合いや穏やかな時間が流れる、そんな松山市の住みやすさを感じているヒミツだと思ひます。